連載企画

第1回目の告示研修を終えて

公益社団法人　日本臨床工学技士会　専務理事　萱島道徳

2021年10月1日より臨床工学技士法改正の施行に伴い9月13日から告示研修の基礎研修が始まり、私は今後の告示研修での指導者候補としての役回りがあるため10月30・31日での第1回目を受講しました。

まず基礎研修はe-ラーニングによる7分野60講義を視聴後に確認テストを受ける必要がありました。e-ラーニングは視聴時間が10分～70分と幅があるため9月13日に公開されるや否や、帰宅後に食事を摂りながらの視聴でした。当初は1回の視聴で「確認テスト」も楽勝と思いきや、腹腔鏡下子宮全摘術では確認テストが2回連続の不合格でした。その後は2～3回視聴を繰り返し全ての視聴と確認テストを10月中旬に終えました。

そしていよいよ実技研修のため羽田イノベーションシティの会場に向かいました。会場に入ると各テーブルには腹腔鏡・血管確保用のトレーニング器材が整然と準備され万全の体制が整っていました。

2日間の実技研修を受けて特に印象に残ったのは「視野確保」の実技研修です。

手術室業務小委員会の人達が関わったスコープと腹腔内モデルの高精度には驚嘆しました。高精度な「シミュレーター」を準備しないといけない背景には「医師の働き方改革におけるタスク・シフト/シェア」に参画するうえで、事故は絶対に避けるのと同時に厚生労働省・医師からの臨床工学技士への期待に応えるためのものだと感じました。また実習現場では所属長や技士長等の責任ある立場の方々の真剣な受講態度からも告示研修の重要性がうかがえました。(写真)

今後はこの告示研修修了者を増やすと同時に生涯教育としての継続的な教育体制の構築も大きな課題だと思います。

最後に、このような実技研修の準備をしていただいた皆様に感謝申し上げます。